

令和元年度 第5. 6学年 家庭科 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した工夫と課題	課題を受けた今後の改善策
5・6年 家庭科	<p>5年</p> <p>【課題】</p> <p>☆家族が気持ちよく生活するために家庭には様々な仕事があることがわかり、生活しながら家族と関わり協力し合っていくことの大切さに気付き、家庭の仕事を進んで実践していけるようにしたい。</p> <p>☆調理の基礎(材料の分量や手順、調理計画、用具の安全な取り扱い方、材料に応じた洗いか、切り方、味の付け方、盛り付け方、片付け方)について、「ゆでる調理」を通し、しっかり身に付けるようにしたい。</p> <p>☆手縫いの基礎(縫い方、用具の安全な使い方)について、しっかり身に付けるようにしたい。</p> <p>【工夫】</p> <p>☆補助教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活の振り返りをし、家庭での仕事について調べ家庭で実践をしていくためのワークシートを作成し、家庭で実践ができるようにした。 <p>☆教材開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習計画を立て、分担できるところは分担し、また一人でできるところは「一人実習」とし、すべての流れで責任をもって行うことができるようにした。 ・基礎縫いでは、実物や拡大見本また書画カメラを使用し、くりかえし実演して説明するようになった。 <p>6年</p> <p>【課題】</p> <p>☆自分の生活時間の振り返りをし、健康に過ごすために規則正しい生活ができているか考えるようにしたい。</p> <p>☆5年生の調理の基礎学習をもとに「いためる調理」の調理実習をし、学習後いためて作るおかずづくりを家庭で実践できるようにしたい。</p> <p>☆季節の変化に合わせた住まい方や着方、整理整頓、清掃の仕方について考え、快適な住まい方を工夫できるようにしたい。</p> <p>【工夫】</p> <p>☆補助教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日の生活時間を調べるワークシートを作成し、記入することにより、自分自身で振り返りができるようにした。 ・調理実習の前に朝食をとることの大切さに気付くことができるように、寝起きの時とその後の朝食をとった人と朝食をとらなかった人のサーモグラフィの写真を見せ、体温のあがり方から目で見て朝食をとることの大切さを理解できるようにした。 <p>☆教材開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた着方では、衣服を清潔に整える学習から洗濯実習をし、また衣服の手入れに必要な取り扱い絵表示を各自の洋服から調べ、身近なところから興味をもち進められるようにした。 	<p>A 指導目標の明確化と学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の学習内容が見通せるように題材の時間配分をはじめに提示する。 ・その時間の「めあて」を提示する。 <p>B 教材の開発と工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自分の思いや願いをかなえることができるような支援のための教材の開発・工夫。 <p>C 言葉の吟味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を高めることができるような声掛け。 ・作品の発表会では、発表者に対して、よかったところをみんなで認め、アドバイスがあればプラスになるような具体的な内容で声掛けする。 <p>D 補助教材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手縫いの基礎では、実物、拡大図、書画カメラ等を繰り返し活用し、具体的に実演してみせる。 ・児童向けに作成した本の活用「らくらくソーイングブック」「らくらくクッキングブック」「正方形をステキに変身」など。 <p>E 相互の学び合いと手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人、3人、4人とその状況に応じてグループを作成し、協力し合ったりお互いの良いところを認め合ったりして、次の学習への意欲を高めることにつながるような場の設定をする。

今年度の成果と課題

【成果】

- ・調理実習では「一人実習」を取り入れることにより、すべての流れで責任をもち、見通しをもって進めることができた。また、このことが自信となり、家庭での実践意欲を高めることができた。
- ・製作活動では、実物や拡大見本を使用し、くり返し学習する計画とすることにより、技能の定着につながった。

【課題】

- ・各題材において「ふり返り」の時間を大切にし、その後の家庭での実践意欲につなげられるようにしたが、制作活動などでは、個人差が大きく、しっかりとふり返りの時間をとることのできない児童も見られた。今後も一人一人が見通しをもち進められるよう、手立てを工夫していきたい。